

2018年1月28日(日)／説教者：国分美生

説教：「記念する民」

聖書：出エジプト記15:1～18

イスラエルの人々は、エジプトの圧倒的な支配から救い出してくださった神に対してほめたたえと感謝を表すためこの歌を歌いました。この出エジプト記が成立したのは、エジプト脱出の歴史的出来事から数百年も後のことです。ですからこの讃美の歌は、神の偉大な御手の業と、神の恵みによって救われたイスラエルを記念すべく、祭儀的礼拝において長く歌い継がれてきたと考えられます。神がイスラエルをあがなってくださったことを忘れず、記念して、世代から世代へ大事に記憶を受け継いでいったということです。

出エジプト記の後半とレビ記にかけては、解放の恵みに基づく契約と律法がつづられています。彼らはエジプト脱出を、救いの感謝と喜びだけで終わらせてはいません。神によって救い出されたことを覚え続けることは、今も自分たちが神の救いと恵みの中に生きていることを何度も新たに知らしめます。「だからこそ私たちは今、神に従って生きる。神のものとして生きる。神との関係を保つためにさまざまなルールを遵守する」。イスラエルの人々のそのような思いが伝わってきます。

昨今、「記念日」といえば、パーティーやディナーでお祝いをするような嬉しい日、楽しい日、と考える向きが強いようです。ですが、このモーセによるエジプト脱出を記念し続けるイスラエルの人々の姿から私たちは次のようなことを知らされます。すなわち「記念する」ということは、苦しみに満ちた過去を振り返り、そこに働かれた、人知を超えた神の救いの御業を何度も憶えること。そしてその苦しみと感謝をすべてひっくるめて、神のご支配のもとに、神の民として自分たちはいかに生きていくべきか問い続けること…。イスラエルの人々もこの讃歌を繰り返し歌い続けることで、どんなにか励まされ、力づけられたことでしょうか。

6.23 の集会をはじめとして、沖縄では数多くの記念の式典が行われ続けています。2012 年から始まったゲート前ゴスペルもオスプレイ配備を記念し続けているものであるといえます。神の国は未だ完全にはやってきていません。しかし私たちは、この私たちの生のあらゆる出来事のただ中に、イエス・キリストの十字架と復活の希望…すなわち神の勝利がすでに実現していることを何度も、しかも世代を超え、憶え続けたいと思います。(国分美生)